

私立大学情報教育協会
平成26年度
大学職員情報化研究講習会
基礎講習コース報告

C班3PO(Precious Opportunity)

1

C班3PO(Precious Opportunity)
の紹介

このC3メンバーと組めたすばらしい機会・出会いを大切に、このメンバーにしかできない問題解決の可能性を追求していく

2

発表テーマ

学生の自律的学修の支援
を通じて
社会に適応できる人材の育成
を実現し
より良い未来
に貢献する

3

学生の自律的学修の支援を通じて社会に適応できる人材の育成を実現しより良い未来に貢献する

大学の役割

社会に適応できる人材の育成を実現する場

※社会が求める人材の多くは、コミュニケーション能力や考える力などより、一人の社会人として人格が形成されているかを重視していると言われている。

『自分で考え、社会に参画していく人材を育成し、送り出すための仕掛けをつくる必要がある。』

4

学生の自律的学修の支援を通じて社会に適応できる人材の育成を実現しより良い未来に貢献する

大学の現状

- ・将来なりたいものがわからず、どう勉強をしていったらいいかわからない学生がいる。
- ・大学での学修を社会でどう生かすべきかわからない学生がいる。

このような現状のなかで、取り組みが必要と考える

- ・学生のモチベーションの形成維持・向上
- ・自己を客観視できる力を伸ばす

5

学生の自律的学修の支援を通じて社会に適応できる人材の育成を実現しより良い未来に貢献する

このテーマを選んだ理由

大学入学があたりまえの時代になり、目的を持たず入学してくる学生が増え、大学とのミスマッチが多く起こるようになった。結果、大学生のレベルの低下や、中退率増加につながっていると考える。

大学での学修と社会から求められているものをうまく橋渡しする必要がある。

自律的学修へ

6

問題点の深堀

<現状の問題点>

学生側

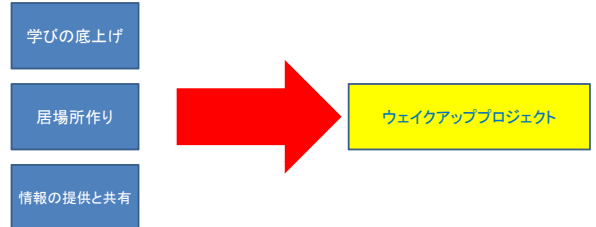
- ・学生に自主性・目的意識が薄い
- ・リテラン能力が低い
- ・大学との入学前・入学後のマッチングがうまくいかない
- ・モチベーションの高い学生と低い学生がいる(低い学生に引きずられる)

大学側

- ・大学の試みが学生に伝わっていない
- ・個々の教員によって教育・研究に意識の差がある
- ・古くからあるやり方が変えられない
- ・学生の考えていることがわからない

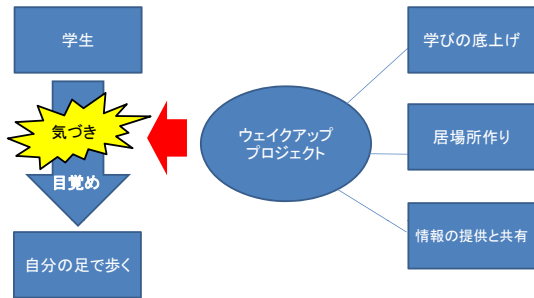
解決策の検討

私たちはこう考えた



ウェイクアッププロジェクト

学生が自ら学び、情報を獲得していけるように大学側が「気づき」を促す試み。



ウェイクアッププロジェクト

<学びの底上げ>

- ・授業の理解度を学生自身に把握させる。
- ・繰り返し授業
- ・実践的な学びの場の提供(授業と連携したボランティア活動など)

<居場所作り>

- ・高いレベルの学生向け特別講座(学びの環境づくり)
- ・学生同士で学習補助のシステムをつくる(コミュニティの提供)
- ・学生主体の学内イベント開催(きっかけ作り)

<情報の提供と共有>

- ・授業を通じて得られる能力を明示し、ロールモデルを提供(提供)
- ・傾聴型の入試・広報活動(共有)
- ・学生同士の対話を授業内に導入(共有)

目覚めよ！
そして、一歩踏み出そう！

ご清聴ありがとうございました。